

平成17年1月15日、山鹿市・鹿北町・菊鹿町・鹿本町・鹿央町の1市4町による2年余りの合併協議を経て、新たな「山鹿市」が誕生しました。

もともとこの1市4町は歴史的・経済的な繋がりが強く、生活圏も共にし、行政面においても広域的な住民サービスに取り組んできました。

このような中、行政ニーズの多様化、少子・高齢化の進展、厳しい財政事情等様々な行政課題を抱えながら地方分権社会に対応していくために、平成12年6月、関係首長で構成する「近未来行政問題研究会」が設置され、合併を含め、行政のあり方についての検討が始まりました。平成13年8月には、「山鹿鹿本地域行政問題検討会」の設置により検討を深め、更に、平成14年3月には関係首長・議長の構成による「山鹿鹿本地域合併問題検討会」を発足し、具体的な合併論議がスタートしました。

その後、各市町で合併の枠組みを含めた住民説明会と意向把握を行い、平成14年8月に任意協議会を立ち上げ、短期間で精力的な検討協議を重ねながら、合併特例法の期限内合併が必要であるとの共通認識を持ち、平成15年1月1日に法に基づく「鹿本地域合併協議会」を設置し、合併に係る多くの事項を本格的に協議してまいりました。この間、協議会、各種委員会はもとより、研修会、合併シンポジウム、住民説明会等幾度に亘る様々な取り組みを重ね、紆余曲折はありましたが、合併の必要性を認識した「信頼と互譲の精神」を基に、廃置分合議決から新市発足へと、比較的順調な足どりをたどってきました。

本誌は、新市発足の節目に当たり、合併に至るまでの背景や経緯をまとめ、後世に伝えるとともに、今後の発展に資することを目的として発行するものであります。編纂されている内容一つ一つに合併への想いが伝わるものがあり、同時に、この度の合併に際し、深い御理解と御協力を賜りました関係各位に心より感謝申し上げます。

この地域は、豊かな人材と恵まれた資源・財産に溢れています。合併を機にその大事な宝を最大限に活かし、6万市民の知恵を絞り込みながら、新たなまちづくりの目標である『まほろば創生～今、はばたく。光あふれ、人輝く未来へ～』の実現に向けて努力してまいりたいと考えております。今後とも、市民の皆様をはじめ、関係各位の温かい御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます、御挨拶とさせていただきます。



平成17年5月

この度の合併記録誌「合併のあゆみ」の発刊を心よりお慶び申し上げます。

近年、市町村を巡る状況を見ますと、地方分権が進展する中、少子高齢化の進行や情報化、国際化などによる環境変化に伴って、新たな行政課題が出てきており、加えて、いわゆる「三位一体の改革」の具体化など地方税財政制度も大きな変革の時期を迎えております。

旧山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町及び鹿央町の皆様方におかれては、このような大きな環境変化を踏まえ、地域の将来を見据えた中で、これらの諸課題に的確に対応する手段として、合併を選択されました。

しかし、合併に至る道のりは、決して平坦なものばかりでなく、幾つもの課題があったかと存じます。特に、それぞれのお立場や意見が異なる課題については、調整にご苦労も多かったとお聞きしておりますが、地域の将来の発展という共通の目的を拠り所として、粘り強く協議を続けてこられました。そうした皆様方の御努力に対して、あらためて深く敬意を表します。

新「山鹿市」は、菊池川にはぐくまれた豊かな自然や装飾古墳、鞠智城址、さらには八千代座といった歴史・文化遺産や温泉等多様な地域資源に恵まれたすばらしい地域です。

合併協議を通じ、多くの方々が地域の将来のあり方について真剣に議論を交わしてこられたことは、必ずや地域の大きな飛躍に結びつくものであり、今後の取組みによって、「だれもが住みやすく、美しく、すばらしいまち」、すなわち「まほろば」となるものと期待しております。

新市誕生に至るまでの合併の経緯や様々な関係資料等を収録した貴重な記録である本書が、山鹿市の更なる発展に寄与し、市政全般にわたって大いに活用されることを祈念いたします。



平成17年5月